

2017年7月21日

放射線医学総合研究所

所長 野田 耕司 殿

永井宏幸

「放射線被ばくの早見表」について

この図は、線量尺度の左に Gy を単位に部分被曝のケースの被曝線量の位置を示し、右に mSv を単位に全身均等被曝のケースの被曝線量を示したものと思われる。図中に矢印で 100mSv 以上の線量を指して「がん死亡のリスクが線量とともに徐々に増えることが明らかになっている」と記入しているが、100mSv が年線量を指すのか累積線量を指すのかこれでは不明であり、貴所に問い合わせたところ、これは累積線量のことであるという回答であった。ほかにもこの早見表には不明な点があるように思われる。「放射線被ばくの早見表」は、文部科学省発行の「中学生・高校生のための放射線副読本」に掲載されており、生徒や教師に誤解を与えることがないように適切な修正が必要であると考えているが、貴所の見解をお聞きしたい。

1. 上に指摘した点について、たとえば「累積線量 100mSv 以上でがん死亡のリスクが線量とともに徐々に増えることが明らかになっている」というように誤解のない表現にすべきであると考えているがいかがですか。

2. 線量尺度の右では年線量の大きさを比較しているのに、ここに累積線量 100mSv 以上についての記述を記入すると理解に混乱をひきおこす。年線量と累積線量は明確に区別して示すべきであると考えているがいかがですか。

3. 線量尺度の右に環境放射線の年線量のレベルを示しているが、環境放射線のリスクについての記述がなく、このレベルの被曝は安全であるとの解釈を促す結果になっている。環境放射線のリスクについては、スイスの小児がん調査、欧米各国のラドン健康被害の調査などがおこなわれており、環境放射線のリスクが明らかになっている。環境放射線は安全であるという考えに誘導するのは有害であると考えているがいかがですか。

4. 「線量の単位」の記述で、1 Gy の吸収線量を全身に均等に被曝した場合は、実効線量 1000mSv の被曝に相当すると説明しているが、吸収線量と実効線量の関連を正確に説明するには、たとえば、水晶体だけに 1 Gy の吸収線量を被曝した場合何 mSv の実効線量の被曝に相当するかを例示するなど、部分被曝の場合の説明も加えるのが適切であると考えがいかげですか。

以上